

共同参画



Special Feature 1

特集1 / 北京+25

—北京宣言、行動綱領の採択から25年—

Special Feature 2

特集2 / 令和元年度国・地方連携会議ネットワークを 活用した男女共同参画推進事業



共同参画に寄せて

foreword

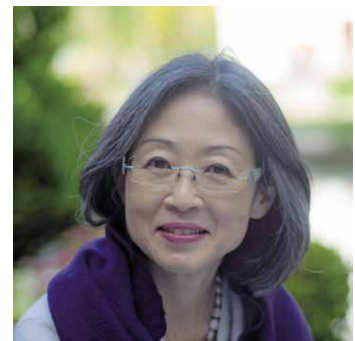
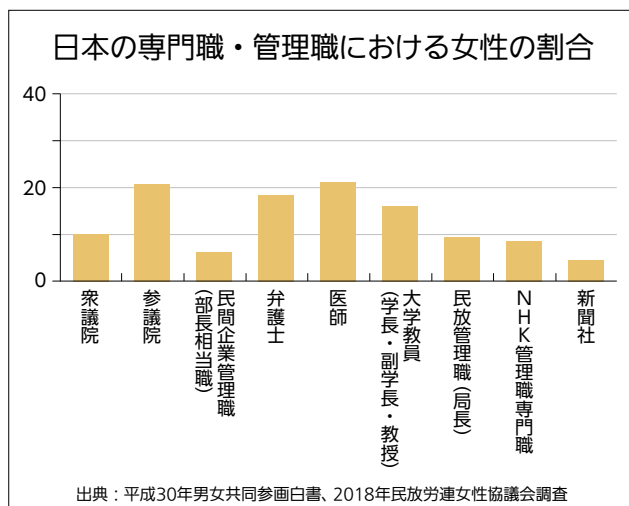
日本では「#MeTooが盛り上がらない」のか？

最近、メディアから日本社会でのジェンダー平等や女性活躍について取材を受ける機会が多くなった。その際、記者さんたちの口から出る質問には、「日本ではなぜ#MeToo運動が盛り上がらないのでしょうか」という消極的なものが多い。しかし、私は、そんなことはないと思っている。なぜなら、日本でもここ2年ぐらいの間に、東京医科大学不正入試への抗議デモ、性暴力根絶を訴えるフラワーデモ、就活セクハラ根絶に向けた学生たちの活動、ハイヒール強要に物申す#KuToo、黄色を目印とした痴漢パトロール隊活動などなど、社会の各所で女性の尊厳を主張する新たな#MeToo運動が展開されてきた。それぞれアジェンダは違うけれども、女だから、男だからと我慢を強いられてきた事柄について、一般の市民たちがしっかりと異議申し立てをしている。

だから私は、「盛り上がっていないのではなく、メディアが盛り上げていないだけじゃないですか」と記者さんたちに問い返すことにしている。

いくつかの事例を調査しても、諸外国に比べて、日本のメディアはジェンダー平等に関する話題の取り上げ方に消極的だ。その原因はいろいろあるだろうけれども、何よりも日本では、メディアで働く女性が圧倒的に少数派であることも一因だろう。管理職となると、その数は絶望的となる。つまり、メディアの側に、ジェンダー平等をめぐる動きへのアンテナが立っていないのである。

人々が知るべきニュースの選択、ニュースの内容、ニュースの順序付けといった制作プロセス全般に、ダイバーシティとマイノリティの視点が薄いことは、せっかく盛り上がった男女共同参画社会を目指す気運を挫くことになりかねない。ジェンダー平等をめぐる日本社会の新たな胎動をいかにキャッチして、社会に浸透、定着させていくか。5年先、10年先の日本のジェンダー平等達成度は、メディアの発信の仕方いかんにかかっていると私は考えている。



東京大学大学院情報学環教授

林香里

Kaori Hayashi

目次

Contents

Special Feature	特集1		
	北京+25 —北京宣言、行動綱領の採択から25年—	page	02
Special Feature	特集2		
	令和元年度国・地方連携会議ネットワークを 活用した男女共同参画推進事業	page	04
Topics	行政施策トピックス1 「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」 行動宣言賛同者の地域における取組	page	07
	行政施策トピックス2 ダイバーシティ・マネジメントセミナーの開催& シンポジウム「企業価値を高める女性活躍推進」の開催	page	08
Topics	行政施策トピックス3 「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2020」受賞者の紹介	page	10
Topics	行政施策トピックス4 世界経済フォーラムが「ジェンダー・ギャップ指数2020」を公表	page	11
News & Info	ニュース&インフォメーション		
	男女共同参画センター長会議	page	12



北京+25 —北京宣言、行動綱領の採択から25年—

内閣府男女共同参画局総務課

「北京+25」とは

令和2(2020)年は、平成7(1995)年の北京会議から25年、女性・平和・安全保障に関する国連安保理決議(第1325号)採択から20年、UN Women(国連女性機関)設立10年、持続可能な開発のための2030アジェンダ(SDGs)採択から5年の節目の年です。1年を通じ、男女共同参画、女性活躍に関連する様々な国際的な取組が行われます。

平成7(1995)年に中国・北京で開催された第4回世界女性会議(北京会議)において、国際的な男女共同参画の取組の規範となる「北京宣言・行動綱領」が採択されました。この宣言及び行動綱領は、女性の貧困、教育と訓練、健康などの12の重大問題領域に沿って、女性のエンパワーメントを推進するためのアジェンダを記載しており、現在まで、男女共同参画・女性活躍のための活動の国際的基準となっています。

第4回世界女性会議(北京会議)

北京行動綱領 12の重大問題領域

貧困

教育と
訓練

健康

暴力

武力紛争

経済

権力と
意思決定制度的な
仕組み

人権

メディア

環境

女兒

国際社会では、こうした基準が策定されたことを記念して、5年ごとに過去5年間の進捗と今後の課題を世界全体で振り返る取組が行われています。25周年となる今年は「北京+25」として、3月に米国・NYの国連本部で開催される第64回国連女性の地位委員会(CSW64)において、これまでの取組状況に関する世界規模のレビューを行うほか、世界中で様々な関連イベントが開催されます。

日本では、本年4月3、4日に東京で開催する第6回国際女性会議WAW!(World Assembly for Women)の中で、「世代を超えて変化を起こし、変化を担う～北京世界女性会議から25周年を迎え

て」と題した「北京+25」に関連した分科会を開催する予定です。今回WAW!のテーマは「WAW! with Men 男性と一緒につくるWAW!～固定観念から自由になろう」で、「北京+25」関連の分科会以外にも、男性のリーダーシップやスポーツとダイバーシティ、アンコンシャス・バイアス、ジェンダーに基づく暴力などに関する様々なディスカッションが行われます。詳細は外務省HPでご確認いただけます。

第6回国際女性会議WAW!

https://www.mofa.go.jp/mofaj/ftp/hr_ha/page22_003385.html


2020年に予定されている 「北京+25」に関連した各種国際会議

日程	会議名	開催地
3/9-20	第64回国連女性の地位委員会(CSW64)	ニューヨーク
4/3, 4	第6回国際女性会議WAW!	東京
5/7, 8	平等を目指す全ての世代フォーラム	メキシコシティ
7/7-10	平等を目指す全ての世代フォーラム	パリ
9/23	国連総会におけるハイレベル会合	ニューヨーク

様々なステークホルダーとの連携

国連は、各国に対して、「北京宣言・行動綱領」やSDGsの実施に際し、政府だけではなく、NGO等の市民社会、民間企業、学術機関やシンクタンク等の多様なステークホルダーとの連携を求めています。

日本は、例えば、平成27(2015)年12月に閣議決定された第4次男女共同参画基本計画を策定する際に、男女共同参画会議に対する内閣総理大臣の諮問を受け、各界各層の有識者からなる「計画策定専門調査会」と「女性に対する暴力に関する専門調査会」及び「監視専門調査会」において、延べ22回にわたる精力的な審議を行うとともに、広く市民社会から意見を聴くため、パブリックコメント(約3,600件の意見)や公聴会(全国6か所。計900名弱の市民が参加)を開催するなど、様々なステークホルダーが関わる取組の推進を重視してきました。

北京+25 包括的国内レビューについて聞く会

今回のCSW64における日本国内のレビューにも幅広いステークホルダーの意見を取り入れ、さらに、「北京+25」に向けた国内の機運を高めるため、男女共同参画推進連携会議企画委員会は、昨年4月及び11月に、「北京+25」に関連した聞く会(意見交換会)を開催しました。

聞く会では、男女共同参画推進連携会議企画委員、特定非営利活動法人Gender Action Platform理事の大崎麻子さんをコーディネーターとしてお迎えし、CSW日本代表の田中由美子さんを始め、これまで「北京宣言・行動綱領」の実施に向けて尽力されてきた関係者、国連組織、民間団体、学識経験者、ユースなど、性別、年代も多様な方々にご登壇いただき、パネルディスカッションが行われました。



北京+25 包括的国内レビューについて聞く会
(11月、日本学術会議講堂)

4月の聞く会は、「北京宣言・行動綱領」の実施に向けた最近の国際社会の動向などをテーマとし、11月の聞く会は、国内及び国際的な課題等を踏まえて、どのようなことを報告書に盛り込むべきかについて話し合いました。

会場には、多くの方が参加され、これまでの取組への評価と今後の課題の指摘、SDGsとの連携などについて、パネリスト間、更に会場の参加者を交えて、熱心な意見交換が行われ、ここで出された意見も踏まえ、北京+25 包括的政府報告を国連に提出しています。

政府広報テレビにおける女性活躍特集

以上の取組に加え、更なる機運醸成のため、政府では25年間の女性活躍の歩みや企業での取組に焦点を当て、BS-TBSの政府広報テレビ番組「徳光&木佐の知りたいニッポン!」において特集「女性が輝けば男性も輝く～世代を超えて考える女性の活躍～」を放送しました。番組では、石川雅恵UN Women日本事務局長をゲストとしてお迎えし、北京会議を契機として職域拡大など女性活躍が推進したこと、現役高校生の男女共同参画に関する意識、女性が働きやすい職場づくりに関する先進的な取組の紹介など、世代を超えた女性活躍について取り上げました。

政府インターネットテレビでの視聴も可能ですので、是非ご覧ください。

番組名：BS-TBS

「徳光&木佐の知りたいニッポン!」

テーマ：女性が輝けば男性も輝く～世代を超えて考える女性の活躍～

<https://www.gov-online.go.jp/pr/media/tv/shiritai/index.html>



令和元年度国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業

内閣府男女共同参画局総務課

内閣府では、男女共同参画推進連携会議、同会議構成団体、地域版男女共同参画推進連携会議等とともに、男女共同参画を推進するため全国各地でシンポジウム等を開催しています。令和元年度は5件のシンポジウムを開催しましたので、ご報告します。

日程	イベント名	主な共催団体等
令和元年11月3日(日・祝)	来たれ、リーガル女子!～女性の弁護士・裁判官・検察官に会ってみよう～	日本弁護士連合会
令和元年11月18日(月)	地方における大学、行政、企業の連携による多様な人材・活躍に向けて	国立大学法人島根大学
令和元年12月4日(水)	男女共同参画社会の共創～生活者・企業・行政で創る九州の未来～	日本ヒーブ協議会
令和2年1月17日(金)	男女共同参画社会の共創～生活者・企業・行政で創る関西の未来～	
令和2年1月24日(金)	“生活を豊かにする”働き方改革講演会・交流会 ～働きやすい、暮らしやすい男女共同参画のまち“静岡”について考える～	静岡市女性活躍推進協議会
令和2年2月20日(木)	企業×女性起業家の取引促進イベント～ビジネスにも赤い糸ってあるんです～	国立大学法人お茶の水女子大学

1. 来たれ、リーガル女子!～女性の弁護士・裁判官・検察官に会ってみよう～

女子中高生が進路を考える際の参考としてもらうため、弁護士、裁判官、検察官として活躍する女性法曹からその仕事内容や魅力を紹介するシンポジウムを開催しました。

池田桂子氏(弁護士、愛知県弁護士会元会長)による基調講演と、法曹三者によるパネルディスカッションは、福岡県弁護士会、鹿児島大学、金沢弁護士会、早稲田大学大学院法務研究科にも中継されました。

続くグループセッションでは、法曹三者の普段の生活、仕事の内容やそれぞれの職業のやりがいについて参加者から積極的に質問がされていました。

このほか、会場入り口のロビーでは裁判や法曹の仕事に関するパネル展示が行われ、参加者は足を止めて展示を見ていました。

参加者からは「話を聞いて、信念を持って働く姿をとってもかっこいいと思い、同じ業界に入りたいと強く感じた」、「法曹の仕事のイメージが変わった」などの声が聞かれました。



パネルディスカッションの様子



法曹三者と来場者の質疑応答の様子



司法制度に関するクイズのパネルや法服などの展示

2. 「地方における大学、行政、企業の連携による多様な人材・活躍に向けて」

地域の現状を踏まえた男女共同参画・女性活躍の課題を共有し、男女共同参画のあり方を産学官が共に考えるためのシンポジウムを開催しました。



上野千鶴子氏

上野千鶴子氏(社会学者、東京大学名誉教授)による、男女共同参画の歴史と現状、今後の多様な人材の活躍のあり方についての基調講演に続き、産学官の各分野からパネリストが登壇し、自らの経験を交えてそれぞれの

立場で行ってきた男女共同参画の取組や、男女共同参画社会実現の課題について共有されました。基調講演者の上野氏も加わり、家事時間の男女差や若い女性の県外への流出など島根県特有の課題に対し、産学官それぞれがどのように取り組んでいくか等について活発に意見が交わされました。参加者からは「企業、大学、行政それぞれの立場からの話が聞け、多様性が求められる現場で参考になることがあった」、「データを使った説明がわかりやすかった」などの感想が寄せられました。



パネルディスカッションの様子

3. 「男女共同参画社会の共創～生活者・企業・行政で創る九州／関西の未来～」

市民と企業、行政それぞれの立場から地域の男女共同参画を展望するシンポジウムを、福岡と大阪を繋ぐリレー形式で行いました。

内閣府より男女共同参画の現状についてデータを交えつつ説明したほか、それぞれの会場で企業や行政、議会、民間団体まで多様な立場のパネリストが登壇してパネルディスカッションを行い、男女共同参画の好事例の共有や男女共同参画社会の実現に向けた活発な議論が交わされました。

参加者からは「企業・政治・若者など、様々な視点での話を聞くことができて良かった」、「男女の決めつけをせず、皆ができることを助け合いながら働いていきたい」などの声が聞かれました。



福岡会場でのパネルディスカッション



大阪会場での様子



会場には託児スペースも設けられました

令和元年度国・地方連携会議ネットワークを 活用した男女共同参画推進事業

内閣府男女共同参画局総務課

4. 「“生活を豊かにする”働き方改革講演会・交流会 ～働きやすい、暮らしやすい男女共同参画のまち“静岡”について考える～」

生活を豊かにする働き方改革をキーワードに、多様な働き方・生き方を考えるシンポジウムが行われました。

青野慶久氏(サイボウズ株式会社代表取締役社長)による、多様な働き方を実現する取組とそれを支える組織のあり方についての講演と、内田美紀子氏(株式会社るるキャリア代表取締役)による、静岡市内企業の働き方改革取組事例の紹介に続き、参加者によるワールドカフェ形式の交流会が行われました。交流会では様々な職種、年代の参加者同士がそれぞれの職場や生活の中で感じる課題を共有し、男女共同参画のために取り組むべき具体的な行動について活発に議論を交わしました。

参加者からは、「ひとりひとりの経験や率直な意見を聞くことができ良かった」「今後も企業の取組を知る機会が欲しい」などの声が聞かれました。



青野慶久氏



内田美紀子氏



ワールドカフェの様子

5. 「企業×女性起業家の取引促進イベント～ビジネスにも赤い糸ってあるんです～」

女性のエンパワーメント原則(WEPs)の実践のため、女性起業家と企業の取引促進を目的とするイベントを開催しました。

トークセッションでは、過去の本事業をきっかけに繋がった企業と女性起業家のコラボレーション事例を取り上げ、両者が協力に至るまでの経緯や協力の効果などを紹介したほか、様々な分野で活躍する全国女性起業家の事業を紹介し、今後のコラボレーションの展望などについて活発な発表がありました。また、新サービスや女性起業家と解決したい課題について、企業からプレゼンを行い、女性起業家にコラボレーションを呼びかけました。

参加者からは、「起業する方法や起業家の悩みが聞けて良かった」、「女性起業家の活躍は、ダイバーシティの推進に留まらず社会課題の解決に繋がるビジネスを生むことに意義がある」などの声が聞かれました。



コラボレーション事例報告の様子



事業を紹介する女性起業家



企業からのプレゼンの様子

内閣府と男女共同参画推進連携会議は令和2年度に本事業の対象を、男女共同参画推進に資する普及啓発用教材作成等の企画にも拡大して実施する予定です。

「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」 行動宣言賛同者の地域における取組

内閣府男女共同参画局総務課

平成26年6月に「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言を策定、公表してから5年を経過し、現在230名を超える男性リーダーが本宣言に賛同しています。今回は、男性リーダーの連携により実現したシンポジウムについてご紹介します！

10周年×20周年記念シンポジウム

令和元年12月、弘前大学佐藤学長と弘前市櫻田市長が連携し、弘前大学男女共同参画推進室10周年×弘前市男女共同参画推進20周年記念シンポジウムを開催しました。このシンポジウムは、令和元年7月に弘前大学が「弘前市女性活躍推進企業認定証」を授与された際、櫻田市長が「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言への賛同に佐藤学長を誘ったことがきっかけで実現しました。



シンポジウムにて佐藤学長(写真左)と櫻田市長(写真右)の対談

シンポジウムの前半では、内閣府地域働き方改革支援チーム委員も務める渥美由喜氏より、ダイバーシティ推進における「多面性」の重要性やリーダーのあるべき姿などについて講演していただきました。

後半は、佐藤学長と櫻田市長が対談し、それぞれの10年・20年を振り返っての所感を述べたほか、櫻田市長がリケジョ育成や性的マイノリティ配慮など市の最近の取組について紹介しました。佐藤学長は『「男性リーダーの会」行動宣言への賛同を誇るのではなく、輪を広げていかなければとあらためて思った。多様性・多面性を追求し、働きがいや学びがいのある大学にしていきたい』と強く語りました。

弘前大学 佐藤学長の取組

弘前大学は佐藤学長のリーダーシップにより、教員選考過程において多様性が確保されているか等を確認するためのダイバーシティレポート制度の導入、面接のために来学する女性の教員候補者への旅費支援等のシステム改革を進めています。平成28年度には「文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に共同実施機関として採択されました。これには、女性活躍を加速していくためには弘前大学単独ではなく、他機関と連携していく必要がある、という佐藤学長の考えがあり、申請にあたって、代表機関の岩手大学等と連携してダイバーシティを進めていくという決断をしました。

平成29年度には女性役員を1名選出。女性教員割合は10年で12.1%から19.3%に向上しました。

弘前市 櫻田市長の取組

櫻田市長の女性活躍推進への想いは、職員として携わった、平成10年の男女共同参画室立ち上げから始まります。女性の活躍を応援する地域づくりに取り組んでいくという想いの下、市役所内での女性割合や男性職員の育児休業取得割合は増加してきました。

平成29年に創設された「弘前市女性活躍推進企業認定制度」では、女性の雇用環境の改善に向けた取組を一定の基準以上実施している企業等を認定しており、令和2年1月までの間に47の企業等が認定されました。また、地域の企業で働く女性の異業種交流会を官民連携事業として年に4回開催するなど、地域の中での取組やネットワークをさらに広げていくとしています。



異業種交流会

ダイバーシティ・マネジメントセミナーの開催&シンポジウム「企業価値を高める女性活躍推進」の開催

内閣府男女共同参画局推進課

ダイバーシティ・マネジメントセミナー
「ダイバーシティマネジメント for SDGs
～投資家の視点もふまえて～」を開催

1. セミナー概要

令和元(2019)年12月16日(月)に経団連会館(東京都千代田区)において、一般社団法人日本経済団体連合会(以下「経団連」という。)及び内閣府男女共同参画局の共催で、企業の経営者及び管理職を対象としたダイバーシティ・マネジメントセミナーを開催しました。2013年度から開始した同セミナーは今年度で7年目を迎え、企業の管理職やダイバーシティ推進担当者等、約200名が参加しました。

Society5.0の到来や人口減少等、これから大きな変化を迎える日本社会において、企業が持続的成長を実現していくためには、女性、若者、シニア、外国人を含めた多様な人材の能力を最大限引き出し、さらなる生産性向上を図っていくことが不可欠です。こうした中、ダイバーシティの実現に向けた取組は、この数年、各分野において着実に進められてきています。



当日のセミナーの様子

また昨今、ESG投資が世界的に注目されており、とりわけ「S(Social)」や「G(Governance)」の観点から機関投資家が企業の女性活躍の取組を評価する動きが進んでいます。

今回は、「ダイバーシティマネジメント for SDGs～投資家の視点もふまえて～」をテーマとし、先進企業の経営者からダイバーシティに関する問題意識や取組、成果、今後の課題等について話を聞くとともに、企業・投資家からの事例紹介を通じて、企業におけるダイバーシティ推進への理解を深めました。

2. 基調講演

経団連審議員会副議長／大和証券グループ本社会長
日比野 隆司氏

「ダイバーシティ先進企業へのチャレンジ」というタイトルで経団連審議員会副議長／大和証券グループ本社会長である日比野 隆司氏にご登壇をいただき、大和証券グループのダイバーシティ推進についてご講演いただきました。具体的には、2005年に「女性活躍推進チーム」を発足させ、早期から女性活躍を強力に推進してきたことをはじめ、最近の取組として、女性のキャリア形成も含めた包括的な支援を行う「Daiwa ELLE Plan」の導入、役員に占める女性割合の向上を目指す「30% Club Japan」への参画等についてご紹介いただきました。

3. 事例紹介

①ゴールドマン・サックス証券株式会社
副会長 キャシー・松井氏

「ESGの観点から見たダイバーシティ推進」というタイトルでゴールドマン・サックス証券 副会長であるキャシー・松井氏にご登壇をいただき、女性活躍の効果について数値を用いてお話をいただきました。女性活躍が進んでいる企業ほど株価やROEが高いこと、諸外国のみならず日本の都道府県別のデータを見ても、女性就業率と出生率の間には正の相関があること等ご紹介いただきました。

②株式会社コマツ製作所

取締役常務執行役員 浦野 邦子氏

「コマツにおけるグローバル化とダイバーシティ推進」というタイトルで株式会社コマツ製作所 取締役常務執行役員である浦野 邦子氏にご登壇をいただき、女性を活かせる環境とは、すなわち誰もが働きやすい環境と捉え、女性だけの制度から全従業員を対象とした制度への普遍化を進めているとのお話がありました。その上で、明確なトップ方針のもと、採用・育成配置・働きやすい環境・意識の向上の各分野で進めている施策をご紹介いただきました。

**「企業価値を高める女性活躍推進
～ESG投資、SDGs経営に着目して～」を開催**

1. 概要

令和2(2020)年2月4日(火)に名古屋マリオットアソシアホテル(愛知県名古屋市)において、内閣府男女共同参画局の主催で、シンポジウム「企業価値を高める女性活躍推進 ～ESG投資、SDGs経営に着目して～」を開催しました。



手代木氏による基調講演

2. 基調講演

塩野義製薬株式会社

代表取締役 社長 手代木 功氏

塩野義製薬においては、社会とともに成長し続けるために、企業が成長するためのストーリーを示しながら、ESGやSDGsを組み込んだ取組を実施しているというお話がありました。また、経営者として、株主・投資家、顧客、従業員、社会に対して最適なバランスを保ちながら対話をし続けることが重要であり、例えば従業員との対話では、社長自らが若手社員の育成をする「社長塾」や女性発案のプロジェクトを採用した上でリーダーを任せること等を通じて、人材育成や女性活躍を進めているとご紹介いただきました。

3. 事例紹介

①三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

環境戦略アドバイザー部

チーフ環境・社会(ES)ストラテジスト 吉高 まり氏

ESG投資は一過性のブームではなく、リーマン

ショック等を経験した上での進化した投資であることを示されました。また、生産年齢人口の減少に直面する日本企業においては、将来も存続する企業になるために、人材の確保や女性活躍についてどのように考えているのかを開示することが重要であるというお話がありました。

②オムロン株式会社

グローバル人財総務本部 グローバル人財開発部
ダイバーシティ推進課長 上村 千絵氏

オムロンにおいては、企業理念の実践と中期経営計画の策定にあたり、サステナビリティと連動した取組を実施しているというお話がありました。また、女性活躍については、女性一人ひとりの活躍に対して、会社が成長できる場を作ることが重要であるということ、事例を交えてご紹介いただきました。

4. グラフィックレコーディング

本シンポジウムでは、講演の内容をビジュアル化する手法であるグラフィックレコーディングを取り入れました。完成物は下記のQRコードからご覧いただけます。



詳しい開催報告はこちら

<http://www.gender.go.jp/public/event/2019/020204.html>



令和元(2019)年11月29日(金)、日経BPが今年、最も活躍した、働く女性に贈る日経WOMAN「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2020」の表彰式が行われました。様々な地域・分野・年齢の働く女性の中から選ばれた、大賞、準大賞、受賞者、特別賞の8名をご紹介します。(株式会社日経BP主催、内閣府後援)

大賞

サンリオエンターテイメント 代表取締役社長
小巻亜矢 さん



プロフィール

大学卒業後サンリオ入社、結婚退社。34歳のときに次男を事故で失い人生が一転。37歳で2人の子どもを抱えながら、主婦生活11年のブランクを経て化粧品販売の仕事で仕事復帰。48歳で乳がんに罹患し寛

解。50歳で病気が原因で子宮を全摘出したが、女性を支援したいと子宮頸がん予防啓発プロジェクトHelloSmile設立。53歳で東京大学大学院修士課程修了。2014年サンリオエンターテイメント顧問、2016年サンリオピューロランド館長、2019年現職。

■受賞コメント

キャリアを意識したのは、30代で仕事復帰をしたと思ったとき。当時は今以上に、子ども2人を抱えてできる仕事は限られていた。ニュースを見ては、自分は時代や社会に取り残されているように思えて泣いてばかりいた。

人生は想定外の連続。想定外のことが起きた時は、このことが自分に教えてくれていることはなんだろう、と何度も自己対話をした。その答えに気づくと、自分の枠を超えるための扉が開いたような気がした。そして、扉が開いた先には、さらに知らないこと、知りたいことがたくさんあった。それは「お前はなんぼの者か?」と突きつけられるような体験でもあった。そのたびに、気づけば何度も学びなおしをした。新しい何かを学んでいるときはいつもときめいていた。

何歳だからできない、何々だからできないと思わずに、1人でも多くの女性に、やりたいことを諦めずに自分の可能性を信じてほしいと願う。

受賞者一覧

その他の賞を受賞された方は、以下の通りです。



準大賞	長嶋 愛さん (NHK ディレクター)	難聴者である自身の視点を生かし番組作成。「知られざる世界」を見せ、数々の賞を獲得	前列右から3人目
受賞者	石川 賀代さん (社会医療法人石川記念会 理事長、石川ヘルスケアグループ総院長)	スマホを徹底活用した「攻め」のICT化で、地方の医療現場の「働き方改革」に挑む	前列左から2人目
	片岡 真実さん (森美術館 副館長兼チーフ・キュレーター) (受賞当時)	現代作家の展覧会に66万人が来場! 今を生きる人々とアートとの懸け橋に	表彰式ご欠席
	林 有理さん (大阪府四條畷市 副市長)	11年ぶりに人口増を達成した四條畷市で、「子連れ赴任副市長」として手腕を発揮	表彰式ご欠席
	平田 麻莉さん (一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会 代表理事)	フリーランスのインフラとなる協会を設立。誰もが自律的にキャリアを築ける社会を目指す	前列右から2人目
	水越 由利子さん (江崎グリコ マーケティング本部 ベビー・育児マーケティング部 ブランドマネージャー)	日本初となる乳児用液体ミルクを開発し発売。災害が多い日本で、母親と乳児に安心を届ける	前列右から1人目
特別賞	近藤 麻理恵さん (片づけコンサルタント)	リアリティー番組で全米を席巻! 世界中に、人生のときめきを取り戻す「片づけの魔法」をかける	前列左から3人目

4

世界経済フォーラムが
「ジェンダー・ギャップ指数2020」を公表

内閣府男女共同参画局総務課

世界経済フォーラム(World Economic Forum)が2019年12月、「Global Gender Gap Report 2020」を公表し、その中で、各国における男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数(Gender Gap Index: GGI)を発表しました。この指数は、経済、政治、教育、健康の4つの分野のデータから作成され、0が完全不平等、1が完全平等を示しています。2020年の日本の総合スコアは0.652、順位は153か国中121位(前回149か国中110位)でした。

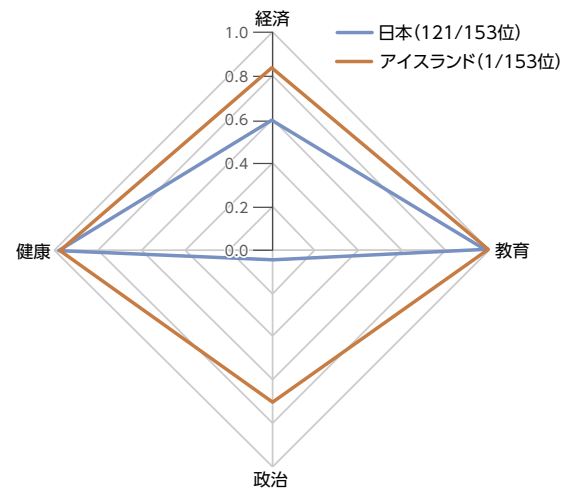
GGI(2020)
上位国及び主な国の順位

順位	国名	スコア
1	アイスランド	0.877
2	ノルウェー	0.842
3	フィンランド	0.832
4	スウェーデン	0.820
5	ニカラグア	0.804
6	ニュージーランド	0.799
7	アイルランド	0.798
8	スペイン	0.795
9	ルワンダ	0.791
10	ドイツ	0.787
15	フランス	0.781
19	カナダ	0.772
21	英国	0.767
53	米国	0.724
76	イタリア	0.707
81	ロシア	0.706
106	中国	0.676
108	韓国	0.672
121	日本	0.652

各分野におけるスコアと順位は、次のとおりです。

分野	スコア(順位)	昨年のスコア(順位)
経済	0.598(115位)	0.595(117位)
政治	0.049(144位)	0.081(125位)
教育	0.983(91位)	0.994(65位)
健康	0.979(40位)	0.979(41位)

GGI(2020)各分野の比較



このほか、各国における男女格差を測る主な国際的指標としては、国連開発計画(UNDP)のジェンダー不平等指数(Gender Inequality Index: GII)があります。GIIは、保健分野、エンパワーメント、労働市場の3つの側面から構成されており、男女の不平等による人間開発の可能性の損失を示しています。0から1までの値を取り、1に近いほど不平等の度合いがより高いことを示します。2019年統計更新では、日本の値は0.099で、世界162か国中23位でした。

詳しくはこちらをご覧ください。

〈GGI〉

(Global Gender Gap Report 2020)
<https://www.weforum.org/reports/gender-gap-2020-report-100-years-pay-equality>



〈GII〉

(Human Development Indices and Indicators: 2019 Statistical Update)
<http://hdr.undp.org/en/data>



News & Information

1 News

内閣府

男女共同参画センター長会議

2月19～20日、令和元年度男女共同参画社会の実現に向けた男女共同参画センター等の管理者等との情報交換会(男女共同参画センター長会議)を開催しました。

橋本大臣は挨拶に立ち、「全国の各地域において、それぞれの実情に応じて男女共同参画に向けた取組を進めることが極めて重要。男女共同参画センターは地域の課題を解決していくための重要な拠点であり、皆さんには各センターの多様な機能をフルに発揮していただきたい。国としても、最大限、皆さんをサポートしていきたい。」と述べました。



参加者は、内閣府をはじめとした各省庁の施策について説明を受けるとともに、グループ討議を通じて各地域の男女共同参画センター等が抱える課題等について認識を深めたり解決策を議論したりしました。

また、札幌市男女共同参画センター、川崎市男女共同参画センター、広島市男女共同参画推進センターから取組事例の発表があり、質疑応答も活発に行われました。



橋本内閣府特命担当大臣(男女共同参画)と全国から集まった男女共同参画センター長の皆さん

3 News

内閣府

女性リーダー育成事業 研修修了式の実施



令和2年2月、内閣府が実施している女性リーダー育成事業において女性役員候補者を対象とした研修が最終回を迎え、宮城県、広島県、愛知県の3つの会場で受講した計95名が修了となりました。

最終回の研修では、これまで学んだことを踏まえ、今後の目標とこれから取り組むべき課題と解決にむけた実行計画について発表を行いました。

修了式では、内閣府から修了証の授与を行い、修了者へ激励のメッセージが送られました。引き続き行われた交流会では、共催した自治体から開会の挨拶があり、「女性リーダーとしてともに地域の女性活躍を進めてほしい」と、地域で活躍するロールモデルへの期待が伝えられました。参加者からは、「講演者、参加者との人脈ができ、大変刺激になった」「研修を受講したことにより、将来役員になる意識ができた」という声がありました。

修了者の皆様の今後の活躍を期待しています。

2 News

文部科学省

「学習オーガナイザー養成研修」を実施しました

国立女性教育会館(NWEC)では、男女共同参画の視点に立った地域づくりのための学習プログラムを効果的に実践・展開できる人材の養成を目的とした標記研修を、1月16日～18日に2泊3日の日程で実施しました。

本研修は、NWECが開発した学習の設計図「プログラムデザイン」の企画・作成を軸に進められ、参加者は初日の講義を経て2日目からグループ別に「地域に即した課題解決プログラムをつくる」ことを目指した実際のプログラムデザインの企画・作成を開始。1日半の長丁場の中で各グループとも企画のブラッシュアップを重ね、最終日には完成したプログラムデザインの成果を参加者全員で共有しました。

参加者からは「予想以上の成果を得ることができた。何よりグループワークでの仲間作りができたことに感謝です。」「課題解決プログラム、かなり苦戦しました。でもその分だけ今後自分が企画する事業に役立つと思います。」等の感想が寄せられました。



修了証を手にする参加者たち。4名の企画委員とともに



詳しくは、こちらをご覧ください。

HP https://www.nwec.jp/event/training/g_gakusyu2019.html



令和元年度の「おとう飯」始めよう」キャンペーン活動報告！



新コスチュームの石橋おとう飯大使

平成29年に始まった「おとう飯」始めよう」キャンペーンは、3年目も多くの方に参加していただきました。令和元年度は、前年度から引き続き「日本全国のおとう飯」として47都道府県の名産おとう飯のレシピをご紹介します、また9月からは新企画として、「おとう飯語録」を発信し、石橋尊久おとう飯大使から「おとう飯」の秘訣と心得をお伝えしてきました。

おとう飯サポーターも、新たに17名の首長等の皆様にご参加いただき、計47名にご就任いただいています。

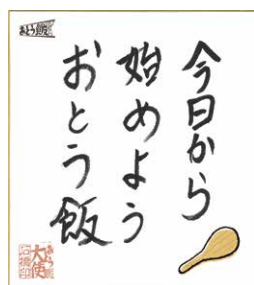
今後もさらに増えることを期待しています。

自治体で行われたおとう飯関連イベントも内閣府のHPでご紹介しています。たくさんのおとう飯関連イベントが、全国各地で行われ、3月にはCBCテレビ・信越放送「まちイチ nice to people」にも取り上げられました。



CBCテレビ・信越放送「まちイチ nice to people」

次年度も、キャンペーンに関する情報発信、エプロンやグッズなどで、「おとう飯」始めよう」キャンペーンを盛り上げていく予定です。ぜひ、みんなで「おとう飯」始めよう」キャンペーンに参加してください！



おとう飯語録



おとう飯サポーターの皆様

おとう飯サポーター

敬称略・参加当時

自治体名等	お名前
電気事業連合会	会長 勝野 哲
阿南市	市長 岩浅 嘉仁
西予市	市長 管家 一夫
取手市	市長 藤井 信吾
日向市	市長 十屋 幸平
那須塩原市	市長 渡辺 美知太郎
加古川市	市長 岡田 康裕
藤井寺市	市長 岡田 一樹
銚田市	市長 岸田 和夫

自治体名等	お名前
新潟県	知事 花角 英世
伊奈町	町長 大島 清
東海村	村長 山田 修
永平寺町	町長 河合 永充
米子市	市長 伊木 隆司
甲賀市	市長 岩永 裕貴
つくばみらい市	市長 小田川 浩
高萩市	市長 大部 勝規

※ご参加いただいた順に記載しております。



「おとう飯」始めよう」キャンペーンサイトはこちら！

HP <http://www.gender.go.jp/public/otouhan/index.html>

編集後記

Editor's Note

広報誌共同参画リニューアルから1年です。リニューアルの際は、もっと多くの、そして男女共同参画にまだなじみのない方にも読んでいただけるような誌面を目指しました。▲共同参画はとても重要なテーマと思いますが、まだ全体の意識の高まりに至らず、自分とは関係のないことと思っている方も多いと言われるかもしれません。▲そうではなく、若い方にもお年を召した方にも、もっと自分に関わるることとして関心を持っていただきたいと思います。それが広報誌の大事な役割です。▲読者の皆さんも、お友達に「ぜひ読んでみて」と勧めてください。それにふさわしい広報誌を、今後も目指していきたいと思っています。

(共同参画エディトリアルディレクター)

Kyodo-Sankaku

月刊総合情報誌
「共同参画」3・4月号

<http://www.gender.go.jp>

<https://www.facebook.com/danjokyodosankaku>

第132号 ◆ 2020年3月10日発行
編集・発行 ◆ 内閣府
〒100-8914
東京都千代田区永田町1-6-1
内閣府男女共同参画局総務課
電話 ◆ 03-5253-2111(代)
印刷 ◆ 株式会社ドウ・アーバン
表紙デザイン ◆ 株式会社外為印刷



性別にかかわらず
個人として
尊重される社会に。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



日本政府は、SDGsに取り組む企業・地方・団体・個人を応援します。

みつけよう! あなたにできること [SDGs 日本](#)

検索